

山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

令和6年度 展示テーマ

『ふかめる』



山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告 令和6年度 展示テーマ『ふかめる』

事業の経緯と経過

令和6年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を活かした学術資料または研究成果の展示を開催するという従来の体制により、引き続き特別展を開催しました。今年度は、11大学13館（下記「事業の実施体制」参照）での開催となりました。

今年度の事業説明会はオンライン会議として開催し、事業内容については、
◎展示の共通テーマを『ふかめる』とする

◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館1ヶ月以上展示を開催するなどが決定されました。

以降、各館の展示準備とともにポスター、チラシなどを作成し、広報物の配付による事業の周知などを行いました。

令和6年10月、予定通り『山口県大学ML連携特別展』は開幕しました。昨年度に引き続き、感染症拡大等の社会情勢に応じて、展示観覧者を学内者のみに制限するなどの対応を行った館もあった中、会期中に計数された見学者数は約1,016名（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）でした。昨年度計数値684名と比較すると大幅に増加しており、全体として盛り上がりを感じられました。

次頁より、参加各館の展示内容の紹介と実施成果の報告を行っております。



展示広報用ポスター

事業の実施体制

・主催

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局

- 事務代表 水津峰夫 (山口大学学術基盤部学術基盤推進課副課長)
- 事務担当 深川昌彦 (山口大学学術基盤部学術基盤推進課副課長・企画連携係)
- 村上晃輝 (山口大学学術基盤部学術基盤推進課企画連携係)

・参加館

- 岩国短期大学附属図書館 宇部フロンティア大学附属図書館
- 至誠館大学附属図書館 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
- 下関市立大学附属図書館 周南公立大学図書館
- 東亜大学附属図書館 水産大学校図書館
- 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館
- 山口県立大学図書館 山口大学総合図書館
- 山口大学医学部図書館 山口大学埋蔵文化財資料館

・共催

大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



山口県大学ML連携事業Web



岩国短期大学 附属図書館 『子どもたちと「ふかめる」』

住 所：〒740-0032 山口県岩国市尾津町2丁目24-18

電 話：0827-31-8141 (代)

e-mail: library@iwakuni.ac.jp

http://www.iwakuni.ac.jp/

●開催期間：10月21日(月)～12月20日(金)

【展示内容】

岩国短期大学幼児教育科では、子どもたちが参加できるイベントを企画し学生が運営しました。「子どもたちのために」考えることは、幼児教育を学ぶ学生には不可欠な視点です。「どうやったら楽しんでもらえるだろうか」「安全に行うためにはどうしたらいいだろうか」と考えながら、学生の思考は深まっています。今回の展示では、学生が子どもたちのために考えた教具やおもちゃを展示しました。既製品にはない手作りのおもちゃや絵本は、学生のアイデアがあふれています。

【関連事業】

大学祭(11/17(日))で図書館外の学内ブースで出張展示を行いました。

【成果】

本特別展のアンケート結果からは、展示物が非常に良いと回答者5名全員が答えていました。うち半数が学生の展示作品の印象について、その他が絵本や書籍について感想を述べています。学生作品を観覧したりふだん手に取らない書籍を知る良い機会になったと思われるのですが、一方で、本学の展示タイトルと展示物が、毎年同じような内容になってしまいがちだとも感じています。特別展への感想がない回答があり、そのことは残念でした。

本図書館は小さいので、訪れたら必ず目にする場所に特別展示をしています。特別展示を知らずに訪れ、興味を持ち他の図書館にも行ってみたいと感想を述べた利用者もいました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本学の特別展観覧者数は減少傾向にあります。そもそも図書館利用者が減少しているのではないかと考えています。本学には図書委員がいますので、その学生達に展示作業を手伝ってもらったり、展示の広報などに協力してもらい、周知を図ることがまずは大切です。早くから彼らの耳に入れておくことも必要かと思うので次年度はこの点に注意していきたいと思います。



展示の様様



展示観覧風景



宇部フロンティア大学 附属図書館 『こころの理解をふかめる』

住 所：〒755-0805 宇部市文京台2-1-1

電 話：0836-38-0524

e-mail: tosho@frontier-u.jp

http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-institution/a-library/

●開催期間：10月1日(火)～12月25日(水)

【展示内容】

心は人それぞれで異なり、誰一人として同じ人はいません。同じ状況、環境で同じ経験をしたとしても、物事の感じ方、とらえ方は異なります。ところが、こころを直接取り出して、見聞きすることはできません。そのため、自分を見失ったり、相手を理解できないことも起こります。また、他者から誤解されてしまうこともあり、対人関係の悩みや心身の問題に発展することもあります。そこで本館では、自己や他者の心の理解を深める体験型の展示を行いました。企画を通じて対人関係の問題解決や予防のヒントになることを期待しています。

【関連事業】

開催期間中に本学で行われたマタニティサロンで、ML展の展示パネルや妊婦体験キットが活用されました。妊婦に対する理解がふかまったと考えられます。

【成果】

前年度と同様、体験型の展示を行いました。特に、大学・短大の全4学科がテーマに沿った展示を行ったため、幅広い情報提供を行えたことは、来場者の満足度につながったものと推察されます。また、担当者同士の意見交換、相互交流が深まるとともに、研究成果を地域へ発信する意義を再確認する契機となりました。よって、来場者のみならず、本ML展に携わった発信者側にも「ふかめる」成果が得られたと考えます。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本年度行った展示をさらに発展させ、年度を越えて運動性のある展示を検討したいです。次に、展示には至らなかった企画を次年度以降にブラッシュアップして展示することも検討したいです。また、本年度はスタンプラリーの実施を見送りましたが、R5年度のコラボージュのように来場者が会場に足跡を残すような展示についても検討したいと考えます。



展示観覧風景



展示の様様



至誠館大学 附属図書館
『子どもの想像をふかめる
学生の活動』

住 所：〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000

電 話：0838-24-4081

e-mail：library@shiseikan.ac.jp

http://www.shiseikan.ac.jp/library/

●開催期間：11月1日（金）～12月24日（火）

【展示内容】

至誠館大学子ども生活学専攻では、これまで地域の子もたちが想像力や表現力を深め、豊かな感性を持つことができるような学生の取り組みを支援してきました。今回は、「子どもの想像をふかめる学生の活動」というテーマのもと、学生と取り組んできた様々な活動、「創作絵本とその読み聞かせ」「参加型コンサートを創る」「創作紙芝居」などについて振り返って紹介しました。

【成果】

「子どもの想像をふかめる学生の活動」というテーマのもと、「参加型コンサートを創る」「創作紙芝居」「制作絵本とその読み聞かせ」について、学生の取り組みを振り返って紹介しました。

アンケートでの展示物の評価は、「非常に良い」「良い」を得ることができました。展示していた学生の作品についても、印象に残ったと評価していただくことができました。

学外からの観覧者は少なかったのですが、学内の教職員や学生にも学生の取り組みや学習の様子を知っていただく良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

図書館に展示物となり得る資料の所蔵がないため、例年、教員に協力依頼をして展示の企画をお願いしています。次年度も教員と連携を図り、教員の研究、大学の取り組み、学生の様子などの展示を行えればと思います。



展示の様様



展示の様様



山陽小野田市立
山口東京理科大学 図書館
『写真を化学でふかめる』

住 所：〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通 1-1-1

電 話：0836-88-4512

e-mail：ylib@admin.socu.ac.jp

https://library.socu.ac.jp/drupal/

●開催期間：11月11日（月）～12月26日（木）

【展示内容】

本学工学部の研究分野から写真や写真に関連する科学技術についての紹介展示を企画しました。進歩・発展を続ける写真を化学的な視点でふかめるとともに、現在の研究について展示しました。過去の写真と同じアングル等で現在を撮影する「リフォトグラフィー」などを紹介しました。

【成果】

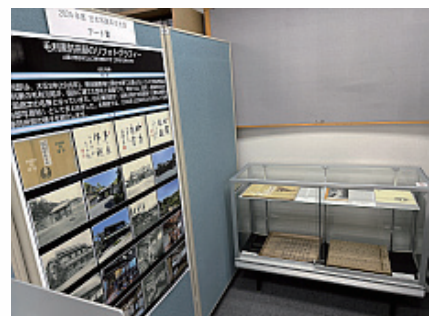
本学工学部の教員と学生が表彰を受けたポスターを展示することで学内での発表の場を提供することができ、また関連する資料の展示協力を得ることができたことで今回の特別展が実施できました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示という形で供することができる資料を所蔵していないため、学内の動向や情報を踏まえての工夫が必要である点が継続的課題です。



展示の様様



展示の様様



下関市立大学 附属図書館
『水産都市“下関”の歴史・文化を
「ふかめる」～過去から現在まで～』

住 所：〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1番1号
電 話：083-252-1211
e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp
https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/
●開催期間：10月1日（火）～1月31日（金）

【展示内容】

水産都市下関の歴史・文化を、本学所有の写真パネルを中心に、過去から現在まで辿ります。写真には、大正年間に撮影された彦島冷蔵庫製氷室や製氷機等や、くじらの街を象徴する建造中の捕鯨船等貴重な写真もあります。この機会に、下関を支えてきた水産業や関連産業の歴史を知っていただき、水産都市としての歴史・文化をふかめていただく機会となれば幸いです。

【関連事業】

大学祭期間中、岸本研究室が実施した「くじら展」とタイアップ。

【成果】

学生のみならず、市民に対しても「くじらの街・下関」を知る機会になったと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本学では、展示スペースなど環境面に課題があるため、現状の硬直化を否定することは難しい状況です。

しかし、総合大学化を進めることで、新たな可能性を切り拓いていきたいと考えています。



展示の様様



展示の様様



周南公立大学 図書館
『周南市の姉妹都市と「ふかめる」』

住 所：〒745-8566 山口県周南市学園台 843-4-2
電 話：0834-28-5394
e-mail：toshokan@shunan-u.ac.jp
https://www.shunan-u.ac.jp
●開催期間：10月21日（月）～12月23日（月）

【展示内容】

周南市はエームスデルタ市（オランダ）、タウンズビル市（オーストラリア）、サンベルナルド・ド・カンボ市（ブラジル）の3都市と姉妹都市提携をしています。昨年度はエームスデルタ市の訪問団が本学にも来校し学生らと交流する機会も得ました。各姉妹都市との交流の軌跡を、市役所の協力を得て展示しました。

【関連事業】

姉妹都市・その国にちなむ図書の紹介

【成果】

周南市とゆかりのある姉妹都市の写真等や書籍を展示することで、その国にちなむ図書の貸し出しは微増しました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

周南市と連携し、より充実した展示を行いたいです。



展示の様様



展示の様様



水産大学校 図書館 『水産学をふかめたら・・・』

住 所：〒759-6595 山口県下関市永田本町 2-7-1

電 話：083-286-5114

e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp

http://library.fish-u.ac.jp

●開催期間：11月1日（金）～12月23日（月）

【展示内容】

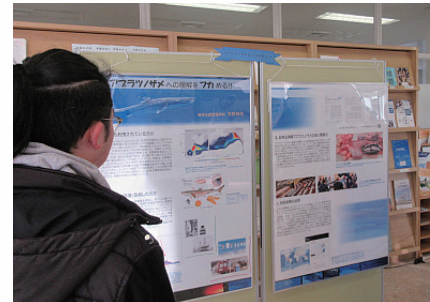
海から食卓まで水産のあらゆる分野について学ぶことができる水産大学校。水産といえば魚だけと思いがちですが、こんなこともやっているの？という研究もあります。水産学をふかめたら、こんなことが見えてきた。今年はそのような研究や取り組みについて、パネルや関連する資料の展示を行いました。

【成果】

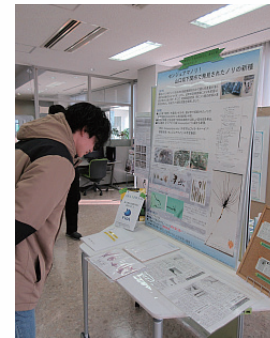
R6年度は、海から食卓まで水産のあらゆる分野について学ぶことができる水産大学校において、こんなことも水産分野でやっているの？という研究を中心に、パネルや関連資料を用いて大学の研究内容の展示を行いました。来場者数は105名と昨年度とほぼ同様でした。アンケート結果からは概ね、「非常に良い・良い」との評価を得ました。例年「たまたま図書館に来たらやっていたので見た」という意見も多かったため、今年はインパクトのある標本や模型を目につく場所に置いたため、それに惹かれ来場した人も多かったようです。講義だけではわからない、あるいは講義で聴いた大学の教員の研究内容を知ることができてよかったという意見もあり、昨年度と同様、大学の情報発信の場として、本特別展が重要な役割を果たしていると感じました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本校での開催場所は入口から近いためか、来館した学生が多く来場してくれましたが、一方でML連携特別展の開催を知らない学生も多くいました。大学の情報発信の場として活用するために、外部の方への宣伝にも力を入れるとともに、普段図書館に足を運ばない学生に、このML連携特別展が図書館に来るきっかけともなるように、学内での宣伝にもっと力を入れたいです。



展示観覧風景



展示観覧風景



東亜大学 附属図書館 『東亜大学 「長州ファイブプロジェクト」』

住 所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1

電 話：083-257-5111

e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp

https://www.toua-u.ac.jp

●開催期間：10月1日（火）～1月30日（木）

【展示内容】

東亜大学では、日本が近代化の歩みをはじめた明治維新からちょうど150周年目にあたる2018年に「次世代長州ファイブプロジェクト」が創始されました。これは、全学部全学科の学生が在学中に一度は海外研修・海外留学を経験するというものです。しかし、このプロジェクトが軌道に乗りかけた2020年初め、折からの新型コロナウイルスによる感染症の世界的蔓延のため、実施が困難となりました。本展示では、2023年になって再開された本プロジェクトを取り上げ、各学科の特色を活かしたユニークな海外研修の模様を伝えることで、本学の学生たちが、研修先の学生とともに、文化交流を通じて相互に自己や他者の理解を「ふかめる」様子を伝えようとするものです。

【成果】

本学のカリキュラムと連動した企画であったため、学生来場者の数が従来よりも多く訪れました。また学生自身が海外研修を履修する際の予習的効果が見られ、研修中にどのような点に注意すれば自分の学びを深めることができるのか、上回生の報告を見学しながら具体的にイメージし、履修を準備できました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今回の企画は、本学のカリキュラムに強く結びついていたため、学内からの見学者の関心を強く引いた一方で、学外からの見学者に対して魅力が伝わりにくくなりました。地域のなかにML展をどのように根付かせていくかを考えた際、さらに工夫する必要があったと思います。



展示の様様



展示の様様



山口県立大学 図書館 『スタイル』

住 所：〒 753-8502 山口県山口市桜島 3-2-1

電 話：083-928-0522

e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

https://www.ypu.jp/li/

●開催期間：11月1日（金）～1月31日（金）

【展示内容】

山口県岩国市出身で、昭和期を代表する女性作家のひとりであった宇野千代は、小説家であると同時に、編集者・出版業者でもありました。この展示では宇野千代による、スタイル社の出版活動や雑誌『スタイル』を振り返りながら、展示を行いました。

【成果】

「ふかめる」をテーマに郷土文学資料センターの協力をいただき展示を行いました。多くの貴重な資料を学内外の利用者へ広く紹介できました。特にアンケートでは、宇野千代がデザインをした「帽子」が印象に残ったとの意見が多数寄せられ、雑誌「スタイル」の変遷とともに「帽子」を展示できたことは有意義であったと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

当館では学外者の来館がほとんどなかったため、次年度は周知についてより一層の工夫が必要と考えます。なお、アンケートの参加も少なかったため、次年度は積極的に声掛けを行ってまいります。



展示の様様



展示の様様



山口学芸大学 山口芸術短期大学 図書館 『ふかめる未来』

住 所：〒 754-0032 山口県山口市小郡みらい町 1-7-1

電 話：083-972-2880

e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp

http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library

●開催期間：10月21日（月）～11月22日（金）

【展示内容】

本学 A 棟 2 階の展示室には、芸術表現学科の授業や卒業制作で作成した作品が数多く飾られています。大まかに3つのジャンルに分かれています。まずは、PBL で作られた成果物です。PBL とは地域課題解決演習という授業で、学生と地域が協力し地域の課題を解決する授業です。次はイラストの展示です。これらはイラストレーションの授業で作成した作品です。プロのイラストレーターから学んでおり、クオリティーの高い作品が並んでいます。最後に卒業研究です。これは学生たちの二年間の深まった学びを活かした作品です。各分野の優秀な作品を数多く展示しました。

【成果】

別棟の展示室にて現在の芸術表現学科の学生の作品、同学科で行われている地域連携等の発表等を展示しました。図書館では連動したミニ展示として、開学から約 30 年間の卒業制作展のカタログの一部を展示しました。

過去から現在まで、そして未来へとさらに深まっていく制作や学習の成果を見ていただけたと思います。

図書館での展示の反応ですが、学生たちが数十年前の学生の作品の「新しさ」に驚いていたのが印象的でした。過去の作品は決して古くはならないとの理解も得られたように思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示の担当学科と図書館の連携がとれておらず、会期半ばで展示を終えなければならなくなりました。

今回は特にメイン展示を学科の展示室に設けていたため、展示に関することをほぼ任せたままっていたことが原因だと思われます。

担当学科との連携を緊密にしていきたいと思っております。



展示の様様



展示の様様



山口大学 総合図書館 『さらにふかめる山口市』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5183

e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（金）～1月31日（金）

【展示内容】

ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」に選出され、今年には山口市が世界から注目される年となりました。

西の京としての歴史や文化、五重塔、湯田温泉など記事で触れられた内容に関連して山口大学所蔵の古い市街図や観光パンフレットなどの資料を紹介しました。

【成果】

アンケートでは、大内氏の説明パネルや観光パンフレットなどの展示物が好評でした。

山口市が注目されているタイミングで、大内文化に関連した資料や、観光パンフレットなどこれまで大きく取り上げてこなかった資料を紹介でき、関心を持ってもらえたことは良かったと思います。パネル作成にあたり、職員も視野を広げることができました。

また、参考文献として展示していた図書の閲覧や貸出も多く見られ、所蔵資料の利用につながりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

アンケートから貴重資料への関心が高いことが伺えたため、次回展示は当館の貴重資料を軸にし、興味関心を持ってもらえるようなテーマを設定したいと思います。



展示資料（一部）



展示の様様



山口大学 医学部図書館 『医学部のルーツを求めて ～蔵書を視点に～』

住 所：〒755-8505 宇部市南小串 1-1-1

電 話：0836-22-2142

e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（金）～1月31日（金）

【展示内容】

医学部図書館には山口県立医科大学の時代に地元医家から寄贈された古医書が収蔵されています。一つは周防富田の四熊家旧蔵書であり、もう一つは長門大嶺の浅山家旧蔵書です。江戸時代末期から明治初期にかけての防長二州における医学推進の状況を示す資料です。

四熊文庫は徳山藩医であった四熊宗庵が使用していたものです。四熊宗庵は生涯にわたって医学教育に携わった人物であり、全国から書籍を収集し「見学堂」という私塾を開設、多くの医者を育てました。浅山文庫は浅山良輔が使用していたものです。浅山良輔は地域の医療活動に従事し、特に種痘の普及に努めました。この両文庫を紹介し、医学部の根底に流れる医心のルーツをたどります。

【成果】

今回の展示では山口大学医学部図書館に所蔵されている四熊文庫、浅山文庫をパネルで紹介しましたが、それぞれの文庫は医学及び医学教育の資料として非常に価値があり、貴重な資料をパネルと共に展示することで、医学部の学生にも教職員にも、資料の存在を深く伝えることができました。

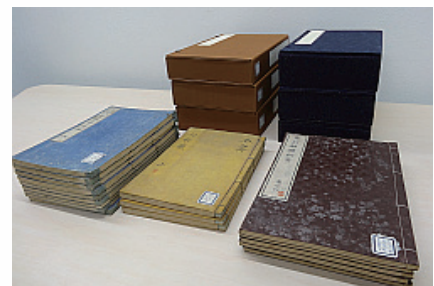
また、この度は、名誉教授である中澤先生のご著書をもとにパネルを作成したことにより、長年培ってきた医学教育の歴史の知識を、多くの方に広めることもできたのではないかと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

医学の歴史を長年研究されている中澤先生の業績を今回を機にアーカイブという形で残していきたいと考えています。



展示の様様



展示の様様



山口大学 埋蔵文化財資料館
『遺跡のふかさ
～吉田遺跡の事例～』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
電 話：083-933-5035
e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp
http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryoukan.home/
●開催期間：11月5日（火）～1月31日（金）

【展示内容】

現在と過去の地形は大きく異なっています。一見平坦に見える現在の地形の下には、起伏に富んだ旧地形が隠されています。

遺跡の発掘調査の目的の一つは、人類がいつ、どのような場所を選んで集落を営んだのかを確認し、その理由を考察することにあります。今回の展示では、本学吉田キャンパスが立地する吉田遺跡を対象に、当地の旧地形を復元し、時代の移りかわりにともなう土地利用の変化を検討します。

【成果】

山口大学吉田キャンパスの縦横断面図を作成し、キャンパス内の比高や各地における遺跡の検出深度を表現しましたが、内容が難解であったためか見学者の多くは展示品（キャンパス内各地から出土した土器や石器）だけを観察していました。展示方法にもう少し工夫が必要と感じました。

当展示に関しては、諸事情によりオープン直前に水曜日休館となったことから、入館者数は昨年度比で78%に減少したものの、観覧者からは「網羅的で色々な時代の遺物があることがわかったのが良かった」「私は理系ですが、こういった展示を学内で見られるのは、総合大学の良さであると感じました。また、「本物」を見るというのは、何にも勝ると改めて思いました」などの感想が寄せられ、概ね高評でした。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

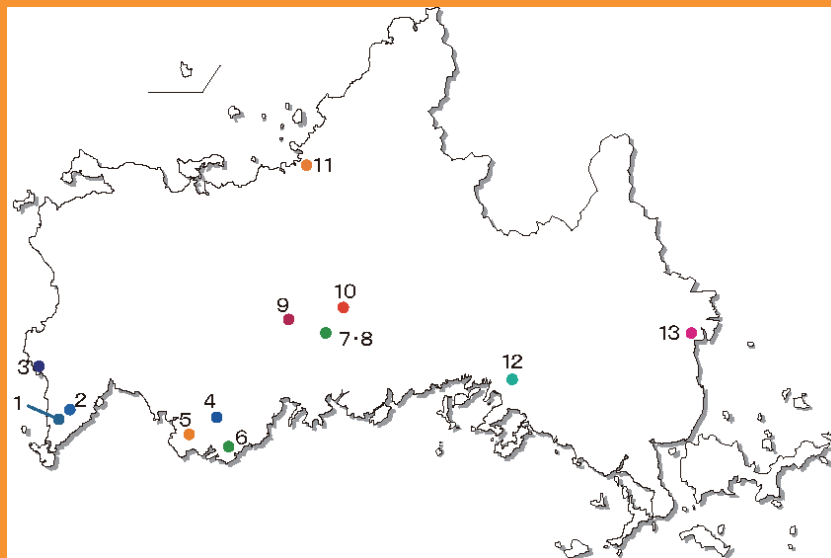
入館者の内訳は、学生70%、教職員4%、学外者（一般）26%でした。本学農学部附属農場の生産物販売に日々群がる教職員数に比して、当館見学者数は少なすぎる（期間中10名）と感じられます。学内教職員への広報力を高める必要があると思いました。学外への広報も、多忙のため労力を割くことができませんでした。次年度は学外にも広報したいと思います。



展示の様様



展示の様様



【下関地区】

1. 下関市立大学附属図書館 2. 東亜大学附属図書館 3. 水産大学校図書館

【宇部地区】

4. 宇部フロンティア大学附属図書館 5. 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
6. 山口大学医学部図書館

【山口・萩以東地区】

7. 山口大学総合図書館 8. 山口大学埋蔵文化財資料館
9. 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館 10. 山口県立大学図書館
11. 至誠館大学附属図書館 12. 周南公立大学図書館 13. 岩国短期大学附属図書館

MUSEE

Am



山口県大学ML (Museum・Library) 連携特別展
令和6年度 共通展示テーマ『ふかめる』
山口県大学ML連携事業Web
<http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集・発行】
山口県大学ML連携事業実行委員会
事務局
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話：083-933-5192
e-mail: ml-ymgc-uc@yamaguchi-u.

[主催]
[共催]
[後援]

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局
大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会
山口県博物館協会 大学博物館等協議会
山口県図書館協会